《史料紹介》

ブルム人民戦線内閣論の周りに（二）

平田好成

『米国の戦略防衛構想（ＳＤＩ）は、東西の相互安全保障を損なうものである。軍縮に逆行するプログラムは、経済を破壊する』

Ｆ＝ミッテラン、一九八七年一二月八日、仏中部の航空機工場開所式の演説

三

第三の論文は、モーリス＝モワソニィエ（ＩＲＭ編集委員）Maurice Moissonnier『ヴィユールバンヌにおける人民戦線と共産党の同一性（イダンティテ）（一九三三―一九三六年）』である。この論文は、五〇周年記念論文（一九八六年）である。

ディミトロフは、フランスの労働者階級は『全国際的プロレタリアートに模範を示す』ことを宣言した、コミンテルン第七回大会の閉会後二カ月、一九三五年一〇月一七日、モーリス＝トレーズは、中央委員会の前に、共産党員たちを期待する、新しい任務を発展させる。（モーリス＝トレーズ、『人民の利益のために』、著作、一〇分冊、九―一〇三頁。）モーリス＝トレーズは、当時、党の第八回大会はフランス共産党の政策に党の新しい飛躍を与える、新しいデモの側面をつかむであろうということを告げる。すなわち、『政治局は、（一九三六年）一月二一日頃、すなわちレーニンの死去の周忌記念のため

・・・、大会を召集するように提案する（・・・・）。われわれは、大会の場所としてヴィユールバンヌを提案する。』レーニンの死去における言及は、部分的にこの選択を説明する。すなわち、リヨンのよく似た都市の中に、実は一九二四年一月二一日、共産党の第三回大会における代議員たちはソ連邦の創設者の死去を知った、しかし、ヴィユールバンヌを優遇する小さい地理的な隔たりは、約八〇、〇〇〇の住民たちの大きな労働者の都市、一九三五年五月の市町村議会議員選挙に高い闘争で獲得された、すなわち、この町が握ったばかりである、象徴的な価値を熱望する。一九三五―一九三六年に共産党によって勝ち得られた成功の実例として、ヴィユールバンヌのケースの正確な研究は、われわれを人民戦線の勝利のこの五〇周年記念の年に是非必要であるように見えた。一九八六年に、歴史的研究は、疑いもなく事件の、それらの原因とそれらの結果から、支配的な特徴を自由にした、しかし、豊富な全体的な研究を越えて、多様化した特殊研究の探究は、常に多く知らせるべきであり、これらの全体の見解はなおぼかすことを持っている問題を修正し、あるいは明確にすることを唯単に受け入れることができる。ある問題は、決して閉ざされていないし、それは、『H＝I＝マルー　H. I. Marrou　は書いたように（マルー、『歴史家の仕事』、歴史とその方法、ラ＝プレイアド、一五八四頁の中に。）、各々の問題は、深くなりながら、』すなわち、この非完成の不安は、『問題は想定する、果敢な他の諸問題で持ち上げる、そして、万障繰り合わせて、あらかじめ解決するのに専念する必要がある・・・』、歴史家の科学的な活動の特性である。しかし、この論文のお陰で、この質問に対して仮の返事を提案するように試みよう。すなわち、どんな、その当時ヴィユールバンヌは提供した、政治的及び社会的活動の場の特別な外形の考慮に入れることを、ここに、一九三六年に、勝ち得られた成功において、党によって定義された、戦略と戦術の役割であるか。

第一のテーマは、町自体そのままの、ヴィユールバンヌの町・・・である。リヨンの勢力範囲に統合された農村のコミューン（地方自治体、市町村）から、都市化された工業の地帯への変化は、一八八〇年と一九一四年の間（マルク＝ボンヌヴィル、『労働者郊外の誕生と変身。ヴィユールバンヌ』、三二〇頁、リヨン大学出版部、一九八一年。）、ヴィユールバンヌに

とって、支配的な繊維工業（製糸工場、織物工場、仕上げ、染色、チュール及びレース製造工場）の激しい侵入で実行された。一九三六年に、この古い主権から、危機は、三〇年代の初めに、強調した衰えにもかかわらず、なお美しい生き残った人たちがいる。工業化の第二の波は、一九一四年から、なお手工業的な型の工場及び伝統的な仕事場に付け加わり、活動のあらゆる段階を拡げた、他の規模の企業で激しい勢いで広がった。この大きな企業への接近は、余波に、ずっと強調された労働の技術的な分割の一環として、重要な資本を定着し、そして任務の複雑さを発展する、新しい部分の出現と同時に、約一〇〇のサラリーマンたちを越える企業の形態の下に、古い部分に集中運動を引き起こした。繊維株式会社は、コミューンの所属地域について、すなわち、シャプ（絹紡糸）、繊維のリヨン人、毛すき及び紡績のリヨン人、ギシェールとコスト、及び染色の所属地域について、すなわち、ジレ、ヴィヨーとアンシェル企業、リズの染色業工場、材料代の上に印刷の新しい会社、を繁栄した。冶金は、多数の鋳造所工場、針金工場（ムレール、リィヴォリエ）、設備仕事場（ブロンデル、ソォリィヴアン）そしてとりわけ電気設備企業（デル、電力会社　ＣＧＥ　、ダイナモ（発電機）電線、電気モーター（発動機）、特別の電気機械学）でもって、なおずっと明瞭な圧力を知っていた。建築のあるいは燃料の加工（石油のリヨンのあるいはアルザス的なガス会社）の食糧企業（大きなリヨンの製粉工場）は、この活動のセットを補う。まったくリヨン大都市圏の工業の導入に関連して、三八二のヴィユールバンヌの企業は、必要なだけ、繊維及び絹織物の設備の一八パーセント、染色及び加工の一〇パーセント、材木の一二パーセント、冶金の二五パーセント、化学の一パーセントを表現する。これらの生産の単位のサイズを見る問題のため、人々は、一九一四年に、人々が一〇〇以上の労働者たちの三五の企業（三企業は五〇〇の労働者たちを越えた所の）を数えた、一九三〇年に、八五の企業（八企業は五〇〇の労働者たちを越える所の）があることを確認する。第一次世界大戦が勃発する時、四万三、〇〇〇人の外人居留者たちを数えた町は、一九三六年に、外国人たちの一六パーセントは、とりわけイタリア人たちとスペイン人たちである、七万八、五〇〇人の居住者たちを再結集する。この急速な経済的な進展は、テーゼの著者は、バーミンガムあるいは

マンチェスターが提供する、外観と比較するのを躊躇しない、工業の建設及び居住の小島の狭い重なり合いによって特徴づけられた、都市計画の基礎的な特徴を定着した。（M＝ラフェレール、『工業的都市、リヨン』、フランス大学出版部、一九六〇年、三八頁。）これらの集まりは、東部の鉄道によって及びある大きな開口によって線引きをされた、大きな軸に沿って分配される。しかし、工場と居住を結び付ける、都市の組織は、コミューンの西部に、コミューンをリヨンから分離する『境界』について、はるかにずっと窮屈である。すなわち、それは、トンキン地方、シャルパンヌ、シャトォ＝ガイヤール（城砦）、フェランディエール、ボンヌテール、シプリアン地区である。地区の労働を監視し、欠勤を産み出す輸送機関の欠如を一時的に緩和する心配事によって、繊維及び染色の企業は、労働者の町を創立した。それは、とりわけ、都市の中心に二つの小島における二七〇の住居とともに、及びヴィユールバンヌの南東の境で、及び大部分ヴォ＝ザン＝ヴランの所属地域について、注意深く等級を付けた九〇〇の住居（労働者たちにとって集団住宅（アパート）、中級幹部たちにとってテント、技師たちにとって別荘）の近くに、ジレー会社のケースである。温情主義的な政策によって影響された設備（姉妹たちによって指導された休憩所＝ホテル、教会、学校、スタジアム（競技場）、食堂、社会医学センター）は、低い賃金と同様に、労働の苦しい及び不健康な諸条件をよりよく受理させることを狙う。そうすれば描写された都市の風景は、最近の仕事は非常に礼儀正しく探究する、人口の社会的な構造を理解するように認める。選挙名簿と名簿の、（コンピューターによる概論）、一〇分の一に対して調査に基礎を据えた、一九三六年にリヨン大都市圏の社会政策的な研究が問題である。（J―L＝ピノール、『社会スペースと政治スペース。人民戦線の時期にリヨン』、リヨン大学出版部、一九八〇年。）この選挙民の分析のため、国立統計経済研究所（INSEE）の社会職業的な社会集団（カテゴリー）を利用する、著者は、三つの政府集団を引き出す。すなわち、百分率は〇から六パーセントまで一四の投票場の間に揺れ動く、支配諸階級（工業家たち、上級及び準幹部たち）。すなわち、百分率は二二から四八パーセントまで変わる、中産諸階級の集団（サラリーマンたち、中級及び準幹部たち）。その代表（最近創立された『超高層建築（摩天楼）』という地区を除いて）は、五九パーセント以下

に決して倒れないし、七六パーセントに到達する、手職人たちの密集した集団。単に、ヴィユールバンヌは、労働者たちと未熟練労働者たちの強い導入によって特徴づけられた、リヨンの東部の社会的な場所に同化するばかりでなく、都市は、特徴を強化もする。この超代表の大衆の効果は、政治的場所の特徴について実に重要である。J―L＝ピノールがそれを書くように（同上、一二三頁。）、『階級の所属は、東部及び南部のリヨンにおいて、西部のリヨン（・・・）において同じ方向を持たない。クロワ―ルースで労働者であることは、ジェルランで労働者であることを同じ方向を予想させない。ヴィユールバンヌでサラリーマンであることは、テロー広場でサラリーマンであることを同じ体験を予想させない。特別の場所における住居、特殊な人の住んでいる場所における停泊は、階級の所属を多元決定する。』別の言い方をすれば、政治的用語に話すため、革命的な労働者党の推進力の周りに及び推進力で、人民戦線の統一は、テローの広場よりヴィユールバンヌに明らかにもっと容易である！コミューンの過去は、まったく非常に矛盾した基本要素を許しながら、同じ方向に自由に動く。最初の工業化の圧力の後、『ヴィユールバンヌの民衆』は、政治的に明示された。市当局は、一九〇八年五月一七日、ジュール＝グランクレマン Jules Grandclément 博士によって指導された作業班の選挙とともに、急進党員から、社会党員になった。一九一四年まで、この指導の下に、強力なリヨンの隣の人によって勧められた併合に対して、コミューンの抵抗は発展した。政治的な相違は、実際に、プロレタリア郊外の都市と違った社会政策的な内容を持った大きな町の間に、強くなる。どこで、『急進党員』ガイユトン Gailleton と『独立社会党員』オーガニュール Augagneur の日和見主義は、共和制の防衛と左翼の団結の調停する連合によって強調された、エドゥアール＝エリオの長い君主の位にまで帰着する。リヨンの併合主義的な策動に対する抵抗は、ヴィユールバンヌの人口に、違ったであろうとする、もっと社会的に決められた、もっと厳格に向けられた、政策の確認への傾向をただ貢献させる。しかし、この政治的な自治は、ただ特定の傾向を持ち、この自治は、それらの制限を容認する。すなわち、ヴィユールバンヌは、世界と国民史を貫流する、大きな潮流で保護された小島ではない。トゥール大会の直後に、一九二一年一月に、グランクレ

マンに後押しされて、社会党支部の非常に大きな多数派は、共産主義インタナショナル＝フランス支部、共産党に加盟し、市会の二九名の当選者たちの中から一八名の当選者たちは、同じ態度を採択する。反抗する人たちを集める、フランス社会党（労働者インタナショナル＝フランス支部）支部の再建は、市当局の内部に関係を広げ、一九二二年三月に、労働組合の分裂は生ずるのに、市労働組合の統一された労働組合とただ交渉するように彼の意思を確認する、市長の宣言は、公開の紛争を引き起こす。グランクレマンと、挑戦を再建する、彼の補佐する人アラメルスリィ Alamercery は、彼らと同時に、彼らの辞職を提出する間に、フランス社会党の一三人の社会党員たちは、辞職する。一九二二年四月二三日の補欠選挙は、共産党員たちの計算の誤謬を暴露する。すなわち、共産党員たちは、約一、〇〇〇の票で敗北したし、一五の議席は、社会党員たちに移る。一九二二年五月七日から一九二四年九月二八日まで、困難な共存は、調停する努力が失敗する、共産党員ポール＝ベルナール Paul Bernard の指導の下に市役所に居を定める。特殊な代表の媒介物の後、一九二四年一一月二日の国政選挙は、一九三五年まで、ラザール＝グジョン Lazare Goujon 博士によって指導された社会党員たちに市役所の検査を保証する。この最後の人、ラザール＝グジョンは、一九二八年の国民議会議員選挙において、第二回投票で、六、〇二五票に対して八、五七三票によって、彼の競争者グランクレマンを敗け、E＝シャンボン E. Chambon に対して、ラザール＝グジョンは、なお二、八七五票に対して一〇、八七九票によって隔たりを増加し、第一回投票において、急進党員たちの後ろに第三の位置に変わる共産党を増加する。労働者の町、ヴィユールバンヌは、共産党とフランス社会党の間、重大な挑戦の活動の場になった。急進党員たちと、職人たち、サラリーマンたち、中級幹部たち―同じく無視し得ない労働者の部分を一括する―の選挙民の支えを調査する、改良主義的な政策と、第一のレヴェルにおいて、労働者たちの利害を優先権を持って展開させながら、階級対階級戦術と、大企業における行動を置く、政策の間の対立は、具体的にヴィユールバンヌにおいて確認される。諸事件は、ヴィユールバンヌの人民の選挙民の分化を速めた。

第二のテーマは、恐慌と統一戦線である。その当時、実は、一九三二年から、経済恐慌は、特別な暴力でもって、ヴィ

ユールバンヌに居住するサラリーマンたちを打撃を加える。人々は、一九三一年の初めに単に三〇〇の失業者たちを数え、その数は、一〇月まで五〇〇の失業者たちの周りに揺れ動く。すなわち、一二月末に、その数は、一、四〇〇の失業者たちを接近し、一九三二年二月に二、四〇〇の失業者たちをかすめる。一九三三年の間に（一、五〇〇―二、〇〇〇）、相対的な小康状態の後、カーブは、一九三四年一二月に三、四〇〇の失業者たちを到達するため、そして、一九三六年初めに四、〇〇〇の失業者たちを越えるため、再び急上昇する。一九三三年三月から、市の報告書は、失業者のヴィユールバンヌの率は、リヨン大都市圏のあらゆる地域の最も高いことを指摘する。仕事の喪失は、繊維部門に始まったし、普及した。仕事の喪失は、次いで冶金、建築、食糧に広がる。一九三〇年一月と一九三四年一月の間、三七の巨大な実業家たちが、コミューンの所属地域について、彼らの工場を閉鎖する。（B＝ムーレ、『社会主義と特色。分化の歴史』、第三課程博士、リヨン第二大学、一九八三年六月二四日。）悲惨な生活の強迫観念に対して、国際的諸事件は、最も意識の中に、不安の新しい理由で付け加える。すなわち、ヴァイマール共和制の崩壊、ヒトラーの政権への就任、炎でドイツ連邦下院議会の不気味な微光、ナチスの反労働者的な鎮圧の暴力について情報、ドイツで軍靴の響き、脅迫的な将来を告げる同数の徴候。一九三三年春以降、人々は、共産党の側から、新しい性格の統一された努力を暴くことができる。執行委員会は、三月に発するアピールにおいて、コミンテルン執行委員会は、その委員会はその目標を定義する、『もう一度闘う統一戦線を創立するように試みる』ことを巧く勧める。すなわち、ファシスト的な及び反動的な攻撃に対する反撃、解雇及び賃金の削減に反対する大衆の抗議。コミンテルンの慣習的な態度の修正を反映する、宣言の似合ったすべてのものがある。すなわち、『執行委員会は、資本の攻勢に反対して及びファシズムに反対して、共同行動の間中、社会党諸組織に反対して、共産諸党に、攻撃を放棄することを勧めるように可能な限り信ずる。』その上に、アピールの最後のスローガンは、社会民主主義の伝統的などんな破棄を許容しない。』（一九三三年三月八日の『インテルコール』誌、二八九―九〇頁。）どのようにして、リヨンの地方におけるこの方向の決定が反映されるのか。三月八日、地方書記ヴァルデック＝ロシェとコルナ

ヴァン　Cornavin　は、統一戦線の諸問題について共同であるはずであった（しかし、フランス社会党連盟が拒絶した）、集会を開催する。三月一八日、地方局は、『リヨンと郊外の社会党系労働者たちに対して、社会党諸支部とローヌ県の社会党連盟に対して』、差し向けられ、そして、地方局を地方的な諸条件に適用しながら、コミンテルンの申し出を伝える。提出された方法は、次の方法である。すなわち、『リヨンと郊外において、デモと偶然にストを組織するため、企業、地区、地域において組織された、あるいは組織されなかった、あらゆる傾向の労働者たちを集める、行動委員会の創設のため、共同の公の集会の開催である。』もしもこの協定は実現されたならば、地方局は、『統一戦線を妨害し、運動を放棄し、あるいは運動を破壊しようと試める人々に対して、冷酷であるような』法律を留保しながら、共同行動に参加した組織に反対して、あらゆる攻撃を終わる気になって確認される。（「人民の声」紙、共産党の地方週刊紙、一九三三年三月一八日。）迎え方は、社会党連盟の側から、氷のように冷たい。三月二五日、彼の週刊誌、「社会党の未来」誌は、『帝国主義戦争に反対して常任委員会によって組織された集会において、社会党の名で話す市民たちに反対して』警戒を呼び掛ける。（アムステルダム委員会―モーリス＝モワソニィエ。）二八日、連盟書記、ウージェヌ＝ジャンドル　Eugène Gendre　技師は、フランス社会党常任執行委員会の指示に関係しながら、国民的レヴェルに調停した交渉の断絶において、統一戦線の不可能さの証拠をよく見る。『共産党員の指定された指導者たちは、労働者の統一に関心を持たない』ということは、ウージェヌ＝ジャンドルは、一七日、共産党の地方局は、彼に発送した、書留書簡の開封に対して言い返す。しかし、四月二日、反戦アムステルダム運動大会の一〇七人の代表者たちは集まる時、二人の社会党員たち、ラホン　Lafond　とデシャン　Deschamps　は資格を持って話を始めることに変りはない。事件は、疑いもなく、地方的な社会党員たちの中で、規律に呼び戻しの効力を強化する結果になる。すなわち、リヨン－サン＝テチエーヌ地方は、プレイエル大会（一九三三年六月四日―六日）に対して送る、約三〇人の代表者たちの間、もしも、共産党あるいは統一労働総同盟（カトリック教徒たち、無所属労働組合員たち及び『非党員』）とは別の視野に由来する若干の基本要素があるならば、フラ

ンス社会党のどんな会員は、出席していない。この特徴は、方向の決定が、先ず第一に、一九三二年の国政選挙以降、『新連合（ネオ＝カルテル）』の妥協的な政策に参加によって決定される、完全に、社会党指導部の一般的な行動様式に照応する。内閣参加派のテーゼを戦う左翼と、大衆の行動に反対するそして強力な国家によって引き付ける、マルセル＝デアとアドリアン＝マルケによって集められた右翼の間に引き裂かれた、フランス社会党をショックを与える危機は、連盟の責任者たちを注意深い中道派の後退に導く。すなわち、もしも、一九三二年八月に、アムステルダム大会で一三・二五パーセントの代表者たちは、フランス社会党であるにしても、人々がプレイエルで六・二〇パーセントの代表者たちしかもはや数えない。（ジョスリーヌ＝プレゾォー、『アムステルダム＝プレイエル運動、統一戦線に対するテストの分野』。CHIRM、一八号、一九八四年、八九―九一頁。）代表者たちが共産党員たちから受ける提案に対して、社会党の責任者たちは、組織的な統一について引き延ばす議論で反対を申し立てる。（同上、ロジェ＝マルテリ、『フランス共産党、コミンテルン及びフランス』、八頁。）この進展が生じる矛盾した態度及び反ファシズム闘争の戦術について共産党政治局の動揺する位置は、復員する混乱に貢献する。一九三三年六月一七日、共産党の指導する組織体は、事実上、反戦アムステルダム運動及び反ファシズム＝プレイエル運動の結合を認可する。次いで、コミンテルンの激しい圧力によって、その組織体は、九月に、コミンテルンはその視点を再検討し、二つの運動の統一の正当さを再確認するため、七月五日、変える。（一九六三年八月五日、六二／六三号の『インテルコール』誌、アンリ＝バルビュスの『世界戦線』誌について年表、及び九月九日の七二／七三号、八七九―八八〇頁。）これらの逃げ口上は、闘争委員会の設立の明瞭な減速（ジョスリーヌ＝プレゾォー、前掲書、九五頁。）、他方で、共社諸関係は悪化する傾向があるのに反して、失業はある少し逆流するように見える、時期に、人々は、完全にリヨン地方に感じる減速を引き起こす。激しい論争は、二つの党を敵対させる。ヴァルデック＝ロシェは、フランス社会党大会後、『左翼たち』は新社会党（ネオ）員たちと戦う、無気力さを告発し、彼らの行動において、『ファシズムのベッドを作る政策』をよく見（一九三三年七月二二日の「人民の声」紙。）、そして、社会党の連盟紙の中で、人々は、『モスクワ教会のヒステリー患者た

ちと槌と鎌の小さな修道士たち』に反対する悪口雑言に移る。(『社会党の未来』誌、一九三三年八月。)失業の上昇は再び始まった間に、諸団体はスタヴィスキー=スキャンダルを利用して揺れる、一九三四年の最初の数日に、何も統一的交渉の再開を知らせるように見えない。W=ロッシェは、一九三三年一二月三〇日の「人民の声」紙に対して署名する社説において、ヴァルデック=ロシェは、『唯一の政策は、一九三四年に、全一九三三年にのしかかった、ファシズムと戦争の悪夢を追い払うことができ、そして追い払わねばならない、それは、彼らの生まれがどうであろうと・・・、あらゆるプロレタリアたちを闘争に結合する政策である』ということを確認する。しかし、この闘争における唯一の有効な方向の決定、『それは、厳しい戦いを横切って、プロレタリアート独裁の勝利に導く、共産党によって推奨された及び組織された方向の決定である。』一九三四年二月の諸事件は、しかし情勢を変更しようとしていた。ローヌ県に関しては、特別な情勢を注意しよう。統一戦線についてドリオの視点は、議論されたその間に、一九三四年一月二三日の中央委員会の時、モーリス=トレーズは、『共産党の影響及び組織の強化に到達しない、すべての統一戦線は、単に統一戦線の戯画化である』ということを確認し、M=トレーズは、『ヴァルデック=ロシェによれば、戦争の策動に参加するように彼らの拒否を考慮して、エリオによって解雇で打撃を加えられた、ジェルランの屠殺場の労働者たちの問題を提出することはできなかった、リヨンの同志たち』を思い起こす。そして、モーリス=トレーズは、『あまりにしばしば、人々は作戦の主導権を任す、ブルジョワジーの、社会民主主義の言うなりに』共産党員たちを警戒を呼び掛けるように思い起こす。(モーリス=トレーズ、著作、五分冊、二四三頁。)

第三のテーマは、譲歩なしで統一戦線である。それが、従って、二月六日の二週間で、すべての妥協に反対してしっかりとあらかじめ保護された、リヨンの共産党員たち、特に彼らの指導者たちである。この情勢は、無視すべきではない。というのは、この情勢は、諸事件の経過について影響を及ぼす。二月三日、セレスタンの劇場で、H=ドゥ=ケリリスは、彼がムッソリーニのインタヴューを戻した、イタリアから帰ると、『特に知らされた及び震えているように見えた、

上品な聴衆』の前に、われわれはファシズムの方へ行くか？という標題を付けた講演をする。（諸団体のため思いやりがある新聞、「ヌベリスト」紙、一九三四年二月四日。）それは、疑いもなく、人々が、二月六日、都市の中心で、ベルクール広場からテロー広場まで、愛国青年団と火の十字架団のデモ参加者たちの間、レピュブリック通りを見付ける、この震えている聴衆の一部分である。火の十字架団は、隣接した通りで短かい前哨戦が起こるのに、『ソヴィエト、ソヴィエト』という、カンテラの歌に拍手を付けて言う、共産党の対抗デモに衝突する。七日水曜日、「進歩」紙の近くでそしてベルクール広場で、激突は続けられる。ソーヌ川の側で、団体員たちは、『議員たちを街灯の紐でしばり首にせよ』と叫び、ローヌ川の側で、社会党活動の諸分子及び同盟を結んだあるいは無所属の労働組合活動家たちによって再び結合した、共産党員たち及び統一された労働組合活動家たちは、『ソヴィエト万歳、キアップを投獄せよ、ファシズムを打倒せよ』の叫び声を混ぜる。二〇時に、消防自動車によって支えられた、近衛騎兵は、デモ参加者たちを突撃する。同じ時間に、市役所の前にインタナショナルの歌で赴く縦隊は、六日、相対的に弱い定員たちは、おびただしく強化された、警察によって攻撃された、八日、同じ姿のケースがある。九日、二〇時にリュニテール広間で招集された集会から、共産党の地方委員会によって予測されたデモを制止するため及び分散するため、この警察の動員はその最も高い点に到達する。（ローヌ県の県文書、10M、一九三四年。）一〇日、出版される、「人民の声」紙は、共産党員たちによって、一週間の間に演ぜられた司会者たちの役割を高揚し、二月八日、同盟を結んだ民主主義同盟の書記、ヴィヴィエ＝メルル Vivier-Merle の係わり合いの重大さを最小限に見せる。「リュマニテ」紙のように、六日の翌日、「リュマニテ」紙は、『ダラディエ、フロ、パトゥノートル銃殺者たちの政府』に非難する。一一日の日曜日、大きなデモは、ジュル＝クルモンのプラットホームからペラシュの駅まで、一二日のストの一日をリヨンで先行する。事実、デモは、二つのはっきり異なる行列で構成される。すなわち、労働総同盟、社会党員たち、無所属の労働組合たち及びデモ運動の公式の組織者たち、イクォール人権同盟の行列、彼らの係わり合いを押し付ける、共産党員たちと統一労働総同盟の行列。『大きな共同の考え、すなわち、ファシ

ズムを打倒せよ、戦争を打倒せよ！と、一七日の「人民の声」紙は書く。ぎっしり詰まったランクは、わが党の具体的なスローガンを爆発した。すなわち、キアップを投獄せよ！ドゥーメルグを打倒せよ！そして、ずっと多数の及びずっと強いスローガン、すなわち、ソヴィエトを！ソヴィエトを！（・・・）。われわれは、追い立ての策動を砕いた。われわれは、労働者たちの統一戦線を押し付けた（・・・）。人々は、同じ行動統一の意思は、指導者たちを活気づけることを結論を出さねばならないか。人々は、統一は実現された及びファシズムは敗けたことを結論を下すことができるか。それは、余りにも単純なことであろう、そして、労働者階級は、かかる幻想について用心する義務がある。』デモは（統一されたよりもっと平行して）、統一労働総同盟、赤色救援部及び共産党のびらは、編集されるから、辛うじて終わった。びらは、ボンヌテール公園に、ヴィユールバンヌに新しい連合によって翌日のストを延長するように巧く勧める。日曜の行進の組織者たちの臆病を強調する、主導権がある。労働者の郊外の中心に、共産党の勢力範囲と社会党の勢力範囲の諸組織の間に対決のセンター、イクォール、コミューンとなるに相応わしい象徴の所属地域について、盲滅法に少しも支払う義務がない場所の選択がある。一二日、警察によれば一、〇〇〇のデモ参加者たち、すなわち、「人民の声」紙によれば数千のデモ参加者たちは、失業者委員会書記、ジュレ Gelet 、統一労働総同盟代表者、ボシュ Bossus 及び共産党にとってヴァルデック＝ロシェを理解するため押し寄せる。一五時四五分頃、集会の終わりに、参加者たちは、『至る所でソヴィエトを』と『キアップを銃殺しろ』を拍手を付けて言いながら、トルストイ遊歩道の方へ列で形作られる。非常に速く、参加者たちは、ロメィエ Romeyer 委員によって指導された警官たちと機動憲兵隊たちにぶつかり、二時間以上の間で、激しい乱闘は、多数の負傷者たちを引き起こす、都市の幾つかの地点に展開する。デモ参加者たちを追跡しながら、警察隊は、幾つかの商店を略奪し、爆発は（ボレェール Bollaert 知事から内務大臣まで電話を掛けたメッセージは（同上。）、参加者たちに非難することを）、ピシッと鳴る。『警官たちは、群集に向けて発射し、婦人たち、子供たちを容赦しない、無惨に棍棒で殴る！社会党市長の彼の義務を忘れる、グジョンは、仲に入るように無視する』と、二月

一七日の「人民の声」紙は、題目を付ける。事件は、うまく、ヴィユールバンヌの町の政治的な生活において転換点をマークを付けたように見える。集められたすべての証言は、この時期に結び付く思い出の中に非常に出席している、警察の暴力は、しっかりと住民を揺り動かしたということを証明する。カミーユ＝ジョリ Camille Joly 教師、人権同盟の代表者レオン＝エムリ Léon Emery とともに、ジュール＝グランクレマンの司会の下に、都市の労働の宮殿に、一六日、開催された抗議の集会がある。統一労働総同盟のE＝シャンボン、共産党を代表してヴァルデック＝ロシェとモンジョーヴィ Monjauvis は、大きな成功を勝ち得る。（同上、特別委員、一九三四年二月一七日。）ロメィエ委員の免職の、損害を被った犠牲者たちと商人たちの賠償の、警察と機動憲兵隊の信用の廃止のスローガンは、現実の民衆の加入を受ける、意味をはっきり示す事実がある。すなわち、都市で張られたポスターにおいて、ヴィユールバンヌの市職員の労働総同盟組合は、『警察の色々な分子の言語道断な態度』に反対して『最も憤慨した組合の抗議を声を挙げる。』この激しさは、この組合はラザール＝グジョンとともに維持する狭い関係の非常に事情に通暁していることに、ヒントを与える人は、『ある人々が疑いのあると評価する、（彼の）管理に反対して公の不満を集中するように定めた』気晴らしを正当化し、そこで見付けることで心配している市長ではないかどうか互いに尋ね合う、警察部長を不意を突く。（同上、一九三四年二月一六日。）二月のこの最初の二週間に、ある問題は、ともかく活動期に入った。すなわち、一二日の激突とヴィユールバンヌでその反響は、ラザール＝グジョンは防衛した新連合で欠けた政策の住民の一部分を切り離すことに貢献する。ファシズムの影は拡大する、政治的暴力は、―オーストリアの二月の悲劇がそれを証明しているように―増殖する、そこで、選挙の方法は、―スペインにおけるように―それらの極端な脆さを暴露する、一瞬の中に、共産党のスローガンは、よりよく理解されたように始まる。至る所にソヴィエトを？人々は間違いの余地はないように！それらのスローガンは、その当時第三インタナショナルが押し付けるモデルに悪く思慮深い誠実を暴露するということは、真実である。しかし、なお、反響はずっと複雑であるということをよく把握する必要がある。すなわち、政治的生活は、スターリンの支配力の

下に、大革命から由来する民衆の組織体にますます少ない現実の権力で保持する、少しソヴィエト社会主義共和国連邦（ソ連邦）の現実に照応する、ソヴィエトの空想的なものの存在を重視する必要がある。一九三四年に、至る所にソヴィエト、それは、大衆の民主主義的独裁の上に建てた社会主義的国家の知覚を説明する。それは、下部での民主主義の過激共和党員（サン＝キュロット）の伝統を再び現われた、政策に新しい関係に労働者たちの憧れを説明する。この時期に、経営者は彼の訴えた権力を感じる時、彼は、『私の工場においてソヴィエトがいない！』という、反対の叫びを上げる。おどしあるいは解放の約束、すなわち、矛盾して援用されたソヴィエトは、上から下まで堅固に階級を設けた国家の―ブルジョワ―民主主義に対立した、下から上まで民主主義の民衆の考え方に指し示す。そして、正確に政治権力のこの民衆の考え方について、実は、共産党は、党は、二月に、諸団体とドゥーメルグ＝ペタン政府の攻撃に反対する、すべての人々に提供する、統一された草案を基礎を据える。共産党にとって、統一は単に下部での現実の組織を保証されることはできるし、ある行動は具体的な目標について明確にする。それは、共産党の地方指導部によって厳しく適用された路線である。三月二日、新しい事実、イクォール、その地方指導部は、行動統一問題を検討するために契約を懇請する、フランス社会党連盟の書記局の手紙を受け取った、と、ヴァルデック＝ロシェは返答する。共産党は推進者であった、『行動統一と革命的統一戦線の考え』は進歩することを注意した後、共産党は、工場、地域、地区において、―それは、ヴィユールバンヌ、ブールジョワンと第七番目におけるリヨンあるいはモンプレジールで発展し始めるように―、『共産党と社会党諸組織、諸労働組合、すべての未組織労働者たち、反ファシズム闘争の証言を求める、すべての人々のように色々な諸連合を集める』下部の統一された諸委員会は創立されるということを提案する。（一九三四年三月一七日の「人民の声」紙。）社会党指導者たちは、非妥協性でもって、この決まり文句に反対する。ヴァルデック＝ロシェは、社会党員たち、共産党員たちと集まった未組織労働者たちの連合によって生まれた、意思、エネルギーと主導権の集積によって構成された、『しっかりした力』に主張するのに（一九三四年三月二四日の「人民の声」紙。）、ウージェース＝ジャンドルは、三月一七日の

「社会党の未来」誌において、『ヴァルデック＝ロシェの冷静に計算された意思』を告発し、『単にモスクワの命令に服従する、共産党指導者たちあるいはそれらの代表者たちによって』創られた諸委員会と比べて、必要な慎重さに訴える。事実、このペンの下に、人々は、三月一一日の社会党全国評議会によって与えられた命令の単なる活用を暴く。すなわち、『決められたデモの共同の準備は、常設の組織体の設立に決して帰着しなければならないであろう。』三月九日、両党間に起こった出会いは、結局、単に貧弱な結果に帰着する。すなわち、人々は、契約を守るように決定し、社会党員たちは、ジャンドルの決まり文句によって、『われらの両党間に、二人の責任のある署名者たちの間に、連絡を作るため、連盟の及び地方の諸委員会』を受け入れる。（無能力のへりに、未組織労働者のあるいは他の組織に所属する活動家（ミリタン）たちを拒絶するとして！）三月九日の直後に、共産党地方は、進路を放棄しない。その地方は、下部での統一を広範に構成するような拒否について、社会党の相手に関して明白に表わした批判を中心に配置し、四月に、G＝レヴィ　G. Lévy、J＝グランクレマン、フェリックス＝ブラン　Félix Brun、（中央委員会の旧会員、ミナール　Minard）、P＝セマールとB＝フラションのような才能がある雄弁者たちと一緒にすべての地域を関係する、集会によって説明の体系的なキャンペーンを始動させる。諸事件は、これらの雄弁家たちによって発展させたデモ行進を支持する。すなわち、対抗デモ参加者たちは、元来火の十字架団に許可された七階の市庁舎の広間において、激しい集会を開催する間に、三月二〇日、ドゥ＝ラ＝ロック大佐とともにリヨンで開催された、火の十字架団の集会は、共産党員たちによって発せられた対抗デモへのアピールの前に、オーギュスト＝コント通りの広間の中で警察の保護の下に反省しなければならない。この時間の間、フランス社会党連盟は、社会党活動家、アムルー　Amouroux　は、七階の市庁舎の集会に、『常時統一戦線を必要とする』と宣言しながら反対する態度、イクォール、ボワロー通り、リュニテールに、連盟の執行委員会を集めるように留める。同じように、四月に、フィリップ＝アンリオが組織する歴訪の時、共産党員たちは、ジボールで及びリヨンで対抗デモを行うことにアピールを増やす。四月二九日、モン＝ドオールでサン＝ディディエで、応答は、社会党支部の、共産党

細胞の及び共産主義青年同盟代表者の雄弁家たちの介入とともに、統一された様相を帯びつつある。五月一三日、事実は、新社会党員たちが、アドリアン＝マルケと一緒に七階の市庁舎に開催する集会に抗して、ガリバルディ広場で、連合に関して繰り返す。共産党の地方局の実践は、第一のレヴェルで、下部での統一の組織問題を置くことは止めないし、この方向に、すべての党の意思を向けるように努力する、モーリス＝トレーズの干渉の常任の路線において登録する。これらの地方の主導権は、マヌイルスキーが、一九三四年三月一六日、コミンテルン幹部会の時、フランス党の書記長に委ねた、会議を先行する。すなわち、『ファシストたちは集会を招集する時、以下の通り、この基礎の上に、われわれは、共同闘争を始めるように用意している（・・・）という、言いながら、社会党員たちにアピールを送付せよ、しかし、あなたは、初めての具体的な好機にこれらの提案をするであろう時、一般的な活動の場について、しかしよく反対に具体的な諸要求について、これらの問題をもたらさないことをよく注意を怠らないようにせよ。よく具体的なモーリシャス島を、君は分っている！あなたは、受諾できない諸条件を提出する義務がないであろう（・・・）。あなたは、社会党系労働者たちが受け入れることはできる、諸条件を提出する義務があるであろう。それは、われわれに関心を与える、社会党系労働者たちとの闘争である。』（ダニエル＝タルタコフスキー、『現代フランスの歴史』、五分冊、クラブ＝ディドゥロ部、一七九頁、の中に、ＩＲＭ文書、五〇／三六六及び五〇／三六八マイクロフィルム。）これらの言葉は発音される最中に、両党間の関係は、地方レヴェルでも全国レヴェルでも、急速に進展し始める。人々は農民において労働の指導をＷ＝ロシェに任せるようになる、全国の指導部に同意したヴァルデック＝ロシェは、若い金属労働者ジュリアン＝エロルディ Julien Airoldi によって取って替わられる。コミンテルン幹部会によって確認された方向の決定は、リヨンの指導部の統一された努力を再出発させる。すなわち、六月五日、地方局は、具体的な基礎について、三月の交渉を再開するため、社会党の連盟執行委員会に差し向ける。その間に、「人民の声」紙は、フランス社会党の指導者たちに反対する皮肉を増やした、囲み記事は消滅する。六月一一日、リュニテール広場で、ユージェヌ＝ジャンドル、ルクェルティエ Lequertier 及びクルー

ゼ Crouzet という社会党の代表者たちと、ジョルジュ＝レヴィ、ジュリアン＝エロルディ及びガブリェル＝ヴァリィエ Gabriel Vallier という共産党の代表者たちの間の出会いは、二つの組織の間に初めての現実的な協定に実を結ぶ。すなわち、大きなキャンペーンは、すべてのファシズムの犠牲者として、テールマンの解放のため決定されるし、行動は、六月二四日、カトリックの保護の衝立の後ろに避けながら、街頭のデモを組織する、諸団体のシンパたちに反対して詳細に計画される。四つのスローガンは、予約された。すなわち、―テールマンと彼の同志たちを救うため―緊急政令に反対して―航空演習と防空措置訓練に反対して（戦争に対する精神の持主を準備するように被告たち）―六月二四日のファシスト＝デモに反対して。この出会いは、パリで、両党の全国指導部は、同様な企てにおいて、協定を実を結ぶように失敗する、同日に起こることを注目しよう。六月一九日、フランス連帯団の書記長、ジャン＝ルノー Jean Renaud のリヨンでの到来は、アムステルダム＝プレイエル運動のアピールに、カルノ広場で連合を引き起こす。デモは、共産党員たち、社会党員たち、同盟した、統一された及び無所属の労働組合員たち、ベルジュリの共同戦線の活動家たちを、接触でもってもたらす。一つの列は、ルノーは、彼の支持者たちを演説する、A＝コント通り、ブランション広間の方にその当時前進する。その列は、強力な警察の及び軍隊の配置に衝突する。その間に、市街電車の従業員ジュストン Juston は、ヴォー＝ザン＝ヴラン Vaulx－en－Velin の共産党市長、マルセラン Marcellin の側で、警察隊によって致命的な傷を負う、激しい衝突という結果になる。五日後で、ボレェール知事が、六月一一日の協定によってプログラムを作ったデモを隔離した、共産党及び社会党指導部たちによって共同で正式に組織された最初の行動が、ジェルランの労働者の郊外で、展開する。行動は、ドゥブール大通りの球転がし場で開催された集会の形態を取る。六月三〇日、「人民の声」紙は、E＝ジャンドルがそれに作る宣言を強調する。すなわち、『統一戦線の実現に対して常任執行委員会によって反対された拒否権にもかかわらず、ローヌ県の社会党連盟は、連盟が方向を示した道において粘り通す。』実は、この挿話に暗に準拠しながら、フランス社会党の副書記、ルキェルティエ、ジロムスキーの支持者は、一九三六年一月二

六日、ヴィユールバンヌで開かれたフランス共産党第八回大会を挨拶しながら、言うことができるであろう。すなわち、『多分、実は、リヨンで、反ファシズム闘争において、社会党系労働者たちと彼らの共産党系同志たちの連合を接合した、この行動統一の強力な運動が始まった。（一九三六年二月一日の「人民の声」紙。）』ジェルランのデモを報告した六月三〇日の「人民の声」紙において、無署名の社説は、共産党によってイヴリーで開催された全国協議会を注釈した。来るべき県会議員選挙を思い起こし、社説は、党は、『勤労諸階級の利益を防衛する機会、イクォール、党の階級対階級戦術（・・・・）』をそこに適用するであろう。しかし、同時に、『都市と農村の中産諸階級の反ファシズム闘争に獲得する』ことは問題であったということを明確にした。次の一週間、ジュリアン＝エロルディは、ずっと正確となった。すなわち、『現実の問題、それは、われわれを大衆から切断した、セクト主義の様相をわれらの党に取り除くことである・・・。それは、ファシズムとわれわれの間に、スピード競技である。』そして、イヴリー協議会でB＝フラションを引用することである。すなわち、『もちろん、新しいもののある問題がある。戦術的な諸形態の中で硬直したままであったであろう。二月の諸事件のように諸事件の後、一年前使用された決まり文句は、諸事件の全体に突発した変更と釣合って、変更された義務があるということを理解しなかったであろう、活動家たちの何と共産党は存在するであろうか？』（一九三四年七月七日の「人民の声」紙。）一九三四年七月は、全国的なレヴェルについて、計画の実現の月である。一四日、諸党で委任された二つの代表団の間の会談は、パリで起こる。すなわち、一五日、フランス社会党全国評議会は、反ファシズムと反戦の統一行動の共産党の諸提案を受け入れる。すなわち、二七日、タンプル大通り、ボンヴァレ料理店で、行動統一協定は署名される。リヨンの大都市圏の中で、この進展は、情勢に『くっつく』、一連の主導権に対応する。社会党は、二〇日、レオン＝ブルムとともに集会の開催を発表する。すなわち、一四日、「人民の声」紙は、書いている。すなわち、『もしもこの集会は起こるならば、共産党員たちの義務は、大挙して集会に出席することである。この集会は、行動統一集会の性格を持つ義務がある。出版物とポスターを従うこと。』リュニテール広間で、社会党党首は、長い数年

以来、数と構成によってかつて見られた、聴衆の前に実際話す。二日後、同じ広間において、共産党の地方局によって招集された、情報会議は、イヴリー協議会の決定と地方の指導者たちの大胆な進め方を賛同する、決議を熱狂の中に投票する。情報会議は、新しいいつか、下部での統一と労働組合の統一の組織を強調し、一九一四年八月の二〇周年の記念日の機に、戦争に反対する、そして七月二〇日―二二日の航空演習に反対する、共同デモを成功するように目標を固定させる。事実、共産党、社会党、共産主義青年同盟、社会主義青年同盟、共同戦線、在郷軍人共和連盟、建築自治連合、統一労働総同盟地方連合、サンディカリスト青少年団体、建築統一労働組合、アムステルダム＝プレイエル地方委員会及び戦争に対する抵抗者たちの共同アピールは、警官隊の激しい反応にもかかわらず、参謀部によって予定された処置の効力のあるボイコットを発する。すなわち、カムフラージュの代わりにイルミネーション、彼の家に透き間ふさぎの代わりに街頭の占拠・・・。パリで協定の調印の日、七月二七日の金曜日、新しい共同集会は、フランス社会党にとってE＝ジャンドルとともに、共産党にとってA＝マルティとともに、リュニテール広間に開催し、共同集会は、ミレィーユ＝オスマン Mireille Osmin とレイモン＝ギュイヨ Raymond Guyot とともに、青少年団体のため、九月二二日、同様なデモを続いて起こるであろう。八月五日、宣戦布告の二〇周年記念日のため、大共同デモは、建築連合の名で、ジャンドル、エロルディ及びボワシィ Boissy の発言権で終わる。共同集会の増加は、公開討論会を妨げない―討論会を注目しよう―。ジュリアン＝エロルディは、まったくモーリス＝トレーズのように、全国レヴェルについて、ここかしこに統一への確認された抵抗、今まで、『彼らの地区あるいは地域の共産党系労働者たちとともに、不可欠の行動統一を実現させるため、大きな意思』（一九三四年七月二一日の「人民の声」紙。）を置かなかった、リヨンと近郊のこれらの社会党支部のかかる抵抗を告発するのをためらわない。そのように、共産党の側で、統一協定によって創られた新しい条件に理由がある、県議会議員選挙が近づくと、統一された実行の変更は、原則について自信に結び付き、上部の協調は、下部での同盟の目標を具体的に定義するように心配事に常につながる。選挙の診断の結果は、急速な進展の方向で、政策の有効性について、そ

の当時テストの価値を出る。都市は、一九二二年以降、共産党員たちと社会党員たちの間に断絶の節点であった程度において、他の場所でもっと、ヴィユールバンヌにおいて、テストの価値を出る。ヴィユールバンヌの小郡のため、社会党立候補者の指定は、最初は、ここでフランス社会党を住むひそかな不安を表わす。小郡は、労働者の郊外を覆う。すなわち、ヴェニスィユー、サン＝フォン、ブロン及びヴォー＝ザン＝ヴランの選挙民たちは、ヴィユールバンヌで付け加わる。それは、旧ゲード主義者、控え目な平和主義に戦争の終わりに再加盟者、一九二七年に元老院に当選者、ヴィユールバンヌ病院院長、ジャン＝ヴォワロ Jean Voillot の立候補を提案する、ブロンの支部である。J＝ヴォワロの名前は、フランス社会党のヴィユールバンヌの決定機関の反対（二二票対八票）にもかかわらず、最後に予約される。J＝ヴォワロは、創設者、ジュール＝グランクレマンの共産党の側で、一九二二年の断絶の人間、ローヌ県内の党の、G＝レヴィとともに、対立させる。一〇月七日、合計五、八一二票とともに、グランクレマンは、順に、穏健な急進党員ギロー Guiraud（三、七四三票）、ヴォワロ（三、六一七票）、右翼の代表者セラミ Séramis（三、〇一三票）及び食み出し者（三六六票）である、はっきりと彼の競争者たちを追い抜く。ヴィユールバンヌで、グランクレマンの前進は、なおもっとはっきりしている。すなわち、グランクレマンは、ヴォワロの票のほとんど二倍（四、一六一票対二、〇九三票）を収穫する。この後者、ヴォワロは、単に立候補を取り下げることができる。一〇月一四日、第二回投票で、共産党の立候補者は、立候補者がヴィユールバンヌ自体で、―唯一の反共産党の立候補者になった―急進党員を八六〇票だけ追い抜く間に、あらかじめ九九三票でもって議席をさらう。投票のもっと緻密な分析は、社会党の選挙人たちが、第一回と第二回投票の間に四八九単位だけ増加した、棄権の中で右翼の選挙人たちを接合したということを証明する。しかし、たとえグランクレマンで六三四票及び共産党と社会党の票の合計を発見するため三・八九パーセントが欠けているでも、人々は、持続する重い係争点を考慮して、延期はよく実行されるということを考察することができる。重要である問題、それは、共産党は、すぐ前の県議会議員投票に対して記録する、人目を引く進出である。それは、第一回投票以来、二、一六七票から

五、八一二票まで、すなわち、一六八パーセントの進歩（リヨンで進歩は、ただ九三パーセントだけである）を移る。『統一戦線は、どういういきさつで、「人民の声」紙において、ジョルジュ＝レヴィ（一九三四年一〇月二〇日の「人民の声」紙。）、すなわち、バロタージュに連合は、敏速にかつほとんど完全になされるか、選挙戦において強固になった。しかし、戦いは、終わらなかった。』そして、急進党ブロックの維持で心配することがある。すなわち、『急進党はペテン師の役割を演じ、急進党は、党に自称の共和的なクロロフォルムを信用する人々に払い込み、そして、患者は用意のできたであろう時、ファシスト外科医の時間は過ぎたであろう。』以上のことから、緊急の義務がある。すなわち、『われわれに、中産諸階級と小農民たちを獲得する必要がある。先ず、ファシズムについての勝利と、続いて、資本主義についての勝利は、この値打中である。』(二)

第四のテーマが、統一戦線から人民戦線まで、すなわち、新しい討論がある。しかし、どのように『急進党のブロック』の選挙人たちは結集させるか。明らかに、共産党員たちは、彼らの労働者の基礎を強化する傾向があり、この前進は、ナント大会は、一一月に、ドゥーメルグによって強く勧められた国家改良に対する反対、そして諸団体の解散に到達するための意思を証明した、急進党員たちの行動様式について実は影響がある。それでも、急進党は、フランダン―ラヴァール―エリオ政府の設立を認めることに変りはない。もしも、大部分、中産諸階級で構成された、急進党の支持者層は、『ファシズムで大嫌いである、しかし、革命をひどく恐れる』ならば、ジョルジュ＝レヴィは、それを確認するように（一九三四年一一月三日の「人民の声」紙。）、どのように、支持者層を『彼の指導者たちの無思慮あるいは二重人格』について目覚めるか。統一戦線の問題は、複雑になる。すなわち、諸団体を打ち破るために、共産党政治局によって強く勧められた人民戦線への必要な移行は、新しい方向転換を必要とする。方向転換は、一九三四年の終わりにリヨンのレヴェルについて感知できるようになる。中産諸階層と知識人たちの征服によって起こさせた問題は、ガストン＝ベルジュリの統一戦線のかなり強い定着と彼の週刊紙「ラ＝フレーシュ」（矢）の刊行でもって、六月から、特別の日の下に、集合体の

中に提起されたし、アムステルダム＝プレイエル運動を競争した、この組織は、労働者諸党で正確な同盟の外に、自治の行動の諸形態を探し求めた。問題の方向の決定は、共同戦線のメンバー、レオン＝エムリによって反ファシズム知識人たちの地方監視委員会の内部に、後で対象とされた。六月三〇日から、この傾向は、「人民の声」紙によって激しく非難された。すなわち、『人々は人々たちを闘争に誘い込むことは、それは、方向の決定を寝室を別にするように見えながらではない、人々は運動を強化することは、それは、脱退を作り出しながらではない！』団体の動揺（フランシスト団、愛国青年団、アクシオン＝フランセーズ、フランス連帯団）は、人民戦線に有利な新聞の店員たちの安全を危機にさらし、都市における再生したのに、国政選挙は、他方では、エリオ主義者の影響力の強固さを暴露した。一一月三日と四日、ヴィユールバンヌで、共同戦線大会は開催される時、共産党の解説は、より少なく辛辣になり、社会戦線の指導者たちによって悪く向いた基礎の反ファシズム意思に敬意を表する。（なぜなら、ある人は、この大会後選ばれた運動の命名であるから。）よりよく、社会戦線は、反ファシズム諸勢力の中央委員会の創立を提案する時、「人民の声」紙は、この主導権を有利に解説する。すなわち、『この委員会は、反ファシズム運動の統一に貢献する。いかなる疑いもない。』（一九三四年一二月八日の「人民の声」紙。）共産党は、フランス社会党、社会戦線、共和派青年同盟、あらゆる従属関係の労働組合同盟と一緒に、一二月末に、『組織の固有な原理に放棄しないで、あらゆるファシスト攻撃は、組織を統一されたと思うだろうと宣告する』、三〇の組織のアピールの中に描かれている。一九三五年一月六日、この主導権は、二つの集会（建築連合の指導者、H＝シャントルイユ　H. Chaintreuil　によって主宰された労働取引所で一つの集会、共産党指導者フェリックス＝ブランによって七階の支庁舎で他の集会）によって、そして、禁止にもかかわらず、リヨンの真ん中にレピュブリック通りで、二時間の間に展開される、デモによって、具体化される。一九三五年二月の初めに、最後は、J＝エロルディは、組織の代表者たちをそこに派遣する、三一の組織の間に、労働総同盟は、その不在によって注目を浴びる・・・（一九三五年二月九日の「人民の声」紙。）ことをまったく残念に思いながら、この地方監視委員会から行動

委員会まで、変化を挨拶する。数日もっと早く、一月三〇日、共産党は、ファシスト諸団体と人民戦線についてカミーユ＝ペルタン党の会長（急進社会党員）、ガブリェル＝キュドゥネ Gabriel Cudenet によって与えられた会議に特別な注意を留保した。ガブリェル＝キュドゥネは、他方で、アムステルダム＝プレイエル運動の責任者たちの一人であったし、エリオとともに内閣の条件で、モーリス＝トレーズとレオン＝ブルムとともに、ビュリエ広間で、最良の仲間と居ることを言った。資本主義について勝利を保証するため、彼の眼に単に可能なプロレタリアート独裁のフランスにおける起こり得る設立について彼を質問した、ジュール＝グランクレマンによって丁寧に訊問された、キュドゥネは、『すべての民主主義的な手段を使い果たした後に、彼は、フランス大革命の精神において、共産党員たちの側でいるであろうということを』返えた。「人民の声」紙によって強く浮き彫りにされた宣言がある。（一九三五年二月二日の「人民の声」紙。）一九三四年二月の諸事件の記念日のために、そしてとりわけ急進党大会の時にヴィユールバンヌの労働宮殿に、三月二九日、リュニテール広間で、モーリス＝トレーズの到着は、共産党書記長に対して、急進党員たちによって影響を及ぼした選挙民たちに特別に話し掛けるように、そして民衆諸勢力を麻痺する『休戦』の延期を受け入れさせるように努力する、『無罪を証明する』エリオを告発するように許す。社会党員たちと一緒に、すべてのこの時期の間に、行動統一は、イデオロギー的あるいは政治的論争を終わらせない。すなわち、二月一六日、「人民の声」紙は、ローヌ県連盟の社会党員たちに特別に話し掛け、行動統一戦術の論証した防衛を提出し、国有化、あるいは階級闘争の中心的な問題をごまかすであろう、組織的な統一は、硝酸水銀溶液を浸したブラシでこすることはできる、幻想を疑問視する。『腹部の党』であるように非難に言い返し、週刊紙は、勤労大衆の諸要求に関係がある、実用的な行動について統一を設立すべきである、重大な重要性を強調する。三日間、二月一一日から一三日まで、指導部によって一二パーセントまで手順を組まれた減給は、六パーセントまで連れ戻されるということを獲得した、ヴィユールバンヌのジレー工場のストを主張するため、共産党員たちの参加の実例を握り、この論文の編集者は、―言葉の暴力がなければ―この闘争について社会党員たちの沈黙を批判す

る。次の週に、同じテーマについて、地方書記、J＝エロルディは、フランス社会党連盟に対して、『働きながら生きるか戦いながら死ぬか』という絹織工たちの歴史的なスローガンの下に、リヨンの失業者たちの飢餓行進を主張するように提案する。共産党対社会党の調整委員会は、三月九日に決定されたこのデモの提案を受け入れる。知事の諸文書は、この主導権を戦うため、警察によってもたらした心遣いを裏切る。（ローヌ県の県文書、4M—二三五。）すなわち、六日から七日まで夜の中に実現された逮捕、リュニテールと七階の支庁舎の広間に向けて集中する義務があった、分列行進の禁止、ラフェイェト橋の近くに、騎馬警備隊の負担、全部は、労働組合統一の過程を促進すること、共産党の指導部によって狙われた他の目標を使う、デモ行動の大きさを弱めるため活用される。この三月九日、この飢餓行進は、J＝グランクレマンが参加する、最後のデモである。すなわち、ヴィユールバンヌの市町村議会議員選挙に共産党の名簿を導くのに指名された、古い指導者は、一五日、朝の一一時に急死する。三月一八日月曜日（パリ＝コミューンの記念日付は、ここに象徴の価値を取る）、並外れた群集は、五カ月もっと早く、一、五〇〇の人々が、選挙の勝利の陶酔において花とシャンソンでもって、グランクレマンの家に、送って行った、グランクレマンを墓地に連れて行く。ヴィユールバンヌの住民における感動的なショックの深さを拡大する、そして共産党の影響力の上昇を明らかに表わす、政治的葬式がある。

第五のテーマは、ヴィユールバンヌの征服、すなわち、主要な段階である。人間のために表明された愛着は、同様に彼の党に対する話し掛けた、まだ検査しなければならなかった。近くの市町村議会議員選挙は、そのチャンスを提供しようとしていた。ヴィユールバンヌで名簿を導くため、地方指導部は、都市の上級小学校に大学学長の委任によって出向中の若い教師、すなわち、カミーユ＝ジョリを選び出す義務があった。選挙のキャンペーンは、統一された圧力は増大する時、デビュする。長らく前から初めて、一九三五年五月一日は、連合した県同盟によって共同デモの拒否にもかかわらず、色々な演説者たちの同じ演壇について理解する、堂々とした群集を集める。すなわち、統一労働総同盟のB＝フラション、建築自治連合のシャントルイユ、労働総同盟＝赤色救助部のベスナール Besnard 、市の同盟

加入者たちのジュブラン Jublin 。彼の側で、共産党地方は、具体的な提案を増やす。すなわち、二年の兵役に反対する請願、高価な生活に反対する闘争、明確な問題を近づくであろう、統一の会議を目標にして社会党と共産党諸支部の集会、すなわち、国民防衛、労働者階級統一、国際的統一、権力獲得、プロレタリアート独裁。（ローヌ県の共産党からフランス社会党への手紙、一九三五年三月三〇日の「人民の声」紙。）この時期において、討論自体は、従って交わされない。討論は、ずっと近くに、活動家たちを保持された、唯一の参謀部に留めない。討論は、激しい論争を免れない、選挙キャンペーンを影響を及ぼす。カミーユ＝ジョリと彼のグループは、特別の論争好きで自分たちのそれを指導する。社会党市長ラザール＝グジョンは、彼の脅かした態度を意識し、彼の連盟に対して、第一回投票以降、急進党員たちをまとめる名簿を提出するように許可を質問する。連盟によって、そして同時にヴィユールバンヌ支部の少数派によって拒否された提案がある。第二回投票に融解の能力を慎重に準備するように心配している、任期切れで止める市長は、『諸団体に行動の自由を与える、政府に反対する批判をブレーキを掛ける』ように続ける。（B＝ムーレ、前掲書、二九三頁。）女子労働者たちは、失業を軽減するために彼女らの家を結合する義務があった、彼女らの宣言について攻撃された（同上、二九三頁。）、市長は、平行して、公式の投票に、男性の同じ選挙母体によって、四名の民間の女性の市会議員たちの追加選挙を組織しながら、名誉を回復しようと試みる。J＝エロルディによって相談された、ジャック＝デュクロは、四月一九日付の手紙において、手袋を拾うように助言し、『ヴィユールバンヌの女子労働者たちと主婦たちの諸要求を表現する、非常に具体的な問題』について根拠のあるプログラムで共産党立候補者たちを武装させるように助言する。（著者に対するC＝ジョリによって伝われた民間文書。）守勢についてラザール＝グジョンに面した、カミーユ＝ジョリは、何の譲歩をしない。ジョリのノートは（同上。）、彼の名簿の選挙集会の中で開催された、発言を正確に再編成するように認める。国政選挙は、断固として、『反戦と反ファシズム闘争の影響下に置か』れる。党は、『党のプログラムと党のスローガンとともに国政選挙に通じているだろう。』相談は、『階級闘争のエピソード』である。相談は、『明るさにおいて展開する』義務がある。共

産党は、行動統一を破壊しないし、協定の正確な基礎を良心的に尊重しながら、党の行動を指導する。しかし、それは、『市の経営について党の感情を与える』のを党を妨げる義務がない。そして、制度は、『ブルジョワ国家における社会主義の断片を建設することは可能であるということを信じさせる』ように努力する間に、『悪い制度を見付け、しかし制度を安定化するため彼の努力をもたらす』、そして、『大衆の連合を鳴るように忘れる』、グジョンの術策と控え目を告発することである。さて、ジョリは宣言するように、彼の実現は、社会党の実現ではない。当時、実は、ジョリは、地方財政を重く借金をさせた、管理の訴訟を作る。（そして、その未来は、異議を申し立てるよりもっと外観を暴露する義務があった！）激しい非難の最高の作品は、任期切れで止める市当局は、誇りに思う、最高級の実現を保証した、資金計画の責任者、ヴィユールバンヌ都市計画協会　ＳＶＵ　の総括を関係がある、作品である。一九三一年四月に合法化された、ヴィユールバンヌ都市計画協会は、市長によって主宰された取締役会によって指導されたし、（四・五パーセントの五、〇〇〇万フランの借金を供給した）モラン＝ポン銀行の代表者、都市の三人の代表者たち、土木工事に参加する五人の企業家たちを含んだ。ヴィユールバンヌ都市計画協会は、都市によって買われた、そして造成された場について、市役所、労働宮殿、いわゆる『超高層建築』という建物の九つのグループ、スタディアムとプールを実現する義務があった。残りは、都市の土木工事の企業のカウンターと会社の企業家たち、商人たちの間に分担されるから、ヴィユールバンヌ都市計画協会の社会資本を供給する株式は、都市によって三、四〇〇フランを支払って拘留された。最初の五、〇〇〇万フランに加えて、他の六、〇〇〇万フラン、すなわち、借金の一万一、〇〇〇万フランの合計は、会社を代表して市当局によって契約を結ばれた（そして、保証された）。マルク＝ボンヌヴィルによれば（Ｂ＝ムーレ、前掲書、二九六頁。）、『その結果、ヴィユールバンヌ都市計画協会とコミューンの間、複雑なそして漠然とした密接なからみ合いということになった』、民間のパートナーたちは、彼ら自身に、決定的に競争のため土木工事を譲与したし、借金の性格と重要性を決定した・・・間に、混乱は、市議会を代表して、同じ市長は、保証した、ヴィユールバンヌ都市計画協会の会長、ヴィユールバンヌ市

長によって、借金の募金の間で確立させた。成功は、受け入れられることにしたであろう、しかし、困難は、弱点のあることにした、未来の半官半民会社の確固とした先行きの予測がある。さて、ラザール＝グジョンの断言に反して、一九三五年のこの初めに、家賃の帰還は、暖房の費用は、予想において過小評価されただけに、借金の年賦を支払って、非常に不十分な帰還を、確認される。人々は、当時、一、四五〇住宅について賃貸しされた一、〇四五住宅を数えたし、辛うじて店舗の四分の一を数えた。一九三四年のための赤字は、六〇〇万フランに上った。そして、国政選挙の直前に、任期切れで止めた市当局は、『ついに予算の作成における窮余の策に至った』、すなわち、現実の赤字は、一、〇〇〇万フラン以上に到達した。（B＝ムーレ、前掲書、二九六頁。）この情勢は、市の報告書によって会計の楽天的な紹介にもかかわらず、見分けられ始めた。スキャンダルは、『会社の失墜と破産を宣告させながら、ヴィユールバンヌ都市計画協会の際限なく費用の掛かるものの整理』（ジョリ文書。）を理解される確認をもって、共産党の立候補者たちは、彼らの綱領で登録することができた段階に、覆った。その上、ある人々が、個人的に話し始めた、他のスキャンダルは、準備した。すなわち、取締役会に所在する当選者たちが参加しないで、長、ヴァンサン Vincent は、会計を操作した、低家賃住宅の支庁のスキャンダル・・・。これらの条件において、一九三五年五月一五日の投票は、すぐ前の県議会議員選挙の進展を単に確認することができる。すなわち、四、三一四票から四、一二六票まで振動する、得票結果でもって、共産党の名簿は、開票の晩に、任期切れで止めた市長の名簿（三、五六一―三、三三八票）、急進党員たちの名簿（二、六二四―二、三五四票）、右翼の名簿（二、二二八―二、一一三票）、『急進社会民主主義たち』の表の名簿（四七七―三九一票）を追い抜く。統一された進歩は、第一回投票から、ラザール＝グジョンによって予定された『左翼』の名簿を引っ込んだ策動を不可能にした。共産党対社会党の調整委員会によって固定された選挙の戦略は、第二回投票でこの解決に訴えることを役に立たないことにするだろう。五月七日の朝、C＝ジョリは、ヴィユールバンヌの社会党支部から、一一時に、第二回投票の問題について議論しに来るよう、乾いた招待を受け取る。（『緊急の理由として、われわれは、あなたは会合の約束に時

間を守ろうとしていることを希望する』！)(同上。) 事実、左翼諸勢力の同盟の名簿のため、急進党員たちとの協定は、すでに用意のできている。名簿の最後の通達の中で、この名簿は、『公正の原理を引き合いに出す、これらの人々』、そして、『単に憎しみ、嘘と羨望を知っている、これらの人々』に、単に非難する。社会党対共産党の調整委員会とフランス社会党連盟の二重のコミュニケを前にして、弱い結果の議論がある。第一のコミュニケは、先頭に到達した党を考慮して、相互の立候補の取り下げを知らせ、第二回投票に統一戦線という題目の下に、明確に定める。すなわち、『ヴィユールバンヌで、五月七日の連盟執行委員会の決定を反対して立ち上がる、市長と任期切れを止めた議員たちの裏切りの理由で、われわれは、特別のやり方で、労働者統一の労働者農民連合(ブロック)の名簿に賛成投票しながら、社会党系と社会主義的傾向のある労働者たちを、彼らの階級的義務を作るように要請する。』すなわち、第二のコミュニケは、フランス社会党の連盟執行委員会は、四の委任と二の棄権に反対して五八の委任によって、ヴィユールバンヌで立候補を取り下げを命じたし、『フランス社会党を引き合いに出すように要求する権利がない、あらゆる名簿に反対するヴィユールバンヌのプロレタリアートを用心させる』ことを明確にする。五月一二日、選挙人たちの評決は、はっきりしている。ジョリの名簿は、四、六八一票と四、二三九票の間に集める、『左翼』の名簿を打ち負かし、六、五〇八票―六、一五三票とともに勝つ。すなわち、重要な事実、グジョンと彼の補佐役ロシオー Rossiaud は、それぞれ四、四二五票と四、二三九票とともに殿を務める。他の名簿は、一、六四六票―一、四七二票と三三九票―二八四票だけ集める。共産党員たちは、絶対多数派を軽く触れるし、三六議席を獲得する。付属の投票の反対投票、すなわち、共産党の民間の四人の女性議員たちは、彼女たち自体、大多数派とともに選ばれる。(三)

第六のテーマは、国民議会議員選挙に勝利のための市のてこである。勝利の直後から、共産党員たちは、何らかの『好調な状態』について計算に入れないで、成功は可能にする、動員の状態を選び出す。すでに、国政選挙前、募集のキャンペーンは、成功でもって、党と青少年たちによって手順を組まれた。キャンペーンは、きっぱりと、相談の直後に続ける

し、「人民の声」紙は、それに与える総括は、カミーユ＝ジョリがこのチャンスで主宰する、集会の訪問を活用する。（一九三五年七月六日の「人民の声」紙。）ヴィユールバンヌは、日刊紙「共和主義のリヨン」紙が、企業の四〇の細胞の中に、六〇の細胞の中にひとまとめにした一、五〇〇の加入者たちを口座に記入するであろう、この『共産主義の城砦』になる傾向がある。（一九三七年一〇月五日の「共和主義のリヨン」紙。）しかし、この努力は、党の組織の単なる強化を狙わない。この努力は、最初に、住民との関係の強化を狙う。新しい市当局の設備以来、新しい市当局は、大きく放送された住所において、『たとえそれはその理想出であるでも放棄なしに、しかしよく反対に理想を仕えながら、直接の生活必需品の満足のため働く』ように約束をつかむ。新しい市当局は、管理の最も大きな明るさを選び出し、『すでに苦痛を覚える人々に犠牲的行為を求めないで』、会計監査を狙う。（ヴィユールバンヌの市報告書（一九三五年五月末）。）『活動は委任した人々の活動を住民に対して規制するように認める』ため、『市議会は、新しい政策を始める。すなわち、人々が、列席者との対話の中で最も異なった市の事業を『へとへとにさせる』、民衆会議の新しい政策。最初の新しい政策は、八月一〇日、九月六日、一一月一五日、一二月二〇日、一九三六年二月七日の民衆会議に続いて起こった一九三六年六月三〇日起こる。会議の異常な会期は、人々は、市の提案、そして、時折、公衆によって進んだ示唆を討議する、これらの集会を補充し、延期する。そのように、B＝ムーレによれば、『終えず、公の場所について展示された、この非常に厳格な経営』は、仕事の状況、組織の集まりの創設及び『情報、力づけ、闘争の交叉点』として、民衆のレストランの使用の正確な知識を失業者たちに提供しながら、失業者たちの状況を改良するように貢献する。（B＝ムーレ、前掲書、二九二頁。）子供（林間学校ともっと恒常的な医師の継続）を考慮して、同様に、高齢者たちと病人たち（病院と施療院を改善すること）を考慮して、この経営は、同時に最善の保健衛生に関する及び社会的な状況を促進しようとする。努力は、同じく、学校の社会的役割の深化を、スポーツ用品のもっと民主主義的な使用を、ジョルジュ＝レヴィがマルクス主義を教える、フランソワ＝ペルー François Perroux が経済学を教える、そしてセザール＝ジオフレイ César Geoffray がソルフェー

ジュと合唱曲を教える、プロレタリア大学の創立でもって文化の普及を目的とする。民衆議会における討議の要点は、都市の財政の重大問題を目的とする。二つの大きな問題は、とりわけ検討される。すなわち、『ヴァンサン事件』の悪影響、すぐ前の市当局によって保護された、そして詐欺の確信を抱いた（スキャンダルは、後になって有罪の宣告を受けたであろう）、都市の低家賃住宅局の長を嫌疑を掛ける、スキャンダル。九月六日の会議の大部分は、スキャンダルに捧げられる。冷酷な正確さでもって事件を展示された後、C＝ジョリは、宣言することはできる。すなわち、『人々は、もみ消しでもって希望しない証拠、いいかね、それは、今夜の満員の広間であろう。それは、外で期待する、人々である。皆は明るさを希望する証拠、それは、ヴィユールバンヌのそして他の場所から労働者たちのこの情熱である・・・。ヴィユールバンヌの労働者の町は、労働者のフランスを否認しないであろう。』（一九三五年九月六日のジョリ文書、四一枚綴り。）第二の問題、コミューンの財政的立て直しの問題は、なおもっと重大なものである。すぐ前の市当局は、壊滅的な遺産を預ける。市当局は、共産党員たちは、経営に行き着く時期から、要求される、不渡り手形を蓄積した。すなわち、それは、例えば、一九三三年から延期された、リヨンの施療院に払い込みのため、ケースである！しかし、とりわけ、すべてのそれに対して、大部分、ヴィユールバンヌ都市計画協会の活動に結ばれた借金によって供給された、負債の重さが付け加わる。都市の財政部局の長の報告によれば、借金の年賦は、当時、一、二〇〇万フラン以上、すなわち、市の予算によって予定された普通の支出の三分の一以上に上る。すなわち、『解決は、現行法及び現行政令において載っていない』、と、政府の効力のある援助を勧める、この報告は、確認する。（ジョリ文書、一九三六年六月二七日の報告。）その時、都市は、結局実際には支払いの停止の状態である。市議会は、国家及び県の例外的な補助金の予想事態を含み、書き替えの借金は付け加わる、整理の借金に訴えることを予知する、一九三六年を目的として初期の予算を念入りに作り上げる。すなわち、課税と付加税の誇張された値上がりを避けるように唯一の手段。（ジョリ文書、ヴィユールバンヌの財政状況のレジュメ。）二度にわたって、ボレェール知事は、この予算を拒む。戦いは、参加する。B＝ムーレがそれを書くように、『始終、

事情に通じた住民によって一貫して変わらない、（市当局）は、市当局は直接に責任があるという評価した、知事を通じて、必要な補助金を選びそして獲得する』、そして、ムーレは付け加える。すなわち、『ヴィユールバンヌの抵抗は、人民戦線政府の前ですら、国民的な結果を持っているだろう。大蔵大臣サローは、失業の資金は、とにかく、一部分、国家によって責任を引き受けるということを提案するであろう、そして、コミューンの社会保険料の企業負担分によって重く負担を掛けられたコミューンに対して補助金の原則は、人民戦線政府によって控え目なものであろう。（B＝ムーレ、前掲書、三〇四頁。）ブルム政府の大蔵大臣、ヴァンサン＝オーリオールは、しかし先に進むように拒むであろう。そして、際立って、付加税を引き上げるように強制された、市当局は、市当局の原則に対して忠実のままでいる状況を立ち向かうであろう。データに市当局のすべての透明を与える、市当局は、公に、どのように、人民戦線を破棄しないために、市当局は、一、一七七の付加税、すなわち、四七パーセントの課税の増額を用いて、予算の均衡を投票するように仕向けたか、説明するであろう。（一九三六年一一月二七日の「人民の声」紙。）市当局の動員できる役割は、その時止まらない。もしも、一九三五年七月一四日、デモ（デモに、急進党員たち―パリのデモと違って―は、E＝エリオの対立の理由で参加しない）は、リヨンにおいて展開するならば、ヴィユールバンヌの都市は、八月四日、都市の後援の下で、平和の防衛のテーマについて大きな民衆の祭りを組織する主導権を取る。労働者の市当局の調停は、他方では、社会的な衝突の時、恒常的なものである。そのように、七月に、調停は、労働者たちの二月の半分の勝利の後に、徹底的に、合理化のプランで、そして、統一された労働組合の書記、エドアール＝オーベール Edouard Aubert が姿を現わす、労働者たちの割り当ての解雇で、利用の結果で、労働者たちの運動を再び雇う、ジレー工場の労働者たちに貴重な支点を与える。ストライキのピケに対する援助、支持の集会及び資金を集めるのに当てられた舞踏会の組織者たちに認められた楽々とこなす能力、ストライキ参加者たちの家族に対して民衆のレストランの開館、ストライキの勝利を得た成果を容易にする同じくらいの諸措置。一週間の終わりに、指導部は、時間割、制裁、そして、指導部は二月に維持した（一二パーセントの代わりに）、

六パーセントの減少を放棄する賃金について降伏する。一九三六年四月―五月に、三度目で、ジレー家の及びヴォー＝ザン＝ヴランの　ＴＡＳＥ（南東高速道路職場？、Ｊ＝ジローの返信、不明）の労働者たちは、闘争を再開する時、ヴィユールバンヌの市当局の態度は、前言を翻さない。すなわち、それは、ストライキ参加者たちは、四月二二日、デモをする、五月一三日、警察に立ち向かう、そして、彼らが勝ち取る（今度は、賃金の増額でもって）勝利、イクォール、六月の工場占拠の大きな激発に先行する、そして、同じ時期に、一時的に、四月二七日、彼らの指導部によって打ち破られた、ベルリエの労働者たちが知っている、失敗を釣合う、勝利を祝う、コミューンを迎える行政区域についてである。市の支持は、人民戦線の下部での組織及び下部での構造化を考慮して行動する、政治的、労働組合的及び社会的組織にまた不足しない。この組織とこの構造化は、あらゆる段階に、共産党の指導部の気懸かりの中心に留まる。扇動は、上部から来る。すなわち、あらゆる彼の大きな調停の中で、Ｍ＝トレーズは、倦むことなく、このテーマを再検討する。そして、彼の原文の分析は、この領域の中で、政治局の考え方の進展をよく捕らえるように認める。一九三四年六月二四日、イヴリー協議会に対して、統一戦線諸委員会は、権力の獲得の諸機関として、すなわち、『われわれの未来のソヴィエトの萌芽』（モーリス＝トレーズ、著作、六分冊、一七五頁。）として提出される。それは、なお、彼が一九三四年一一月一三日国民議会で発表する（同上、七分冊、一一〇頁。）、演説の中で人々は発見する、考えである。その代わりに、一九三四年一二月二〇日から、都市と工場の人民戦線諸委員会は、なお離れている、統一された大潮流において、住民の諸階層を入れるため選ばれた諸機関である。すなわち、『われわれは、この最後の点の重要性について、われわれの社会党同志たちを説得するように望む。』（同上、七分冊、一五一頁。）一九三五年三月の論文において、他の側面がある。すなわち、『プロレタリアートの有効的な行動統一のための闘争において、共産党の主要な任務は、都市と農村において下部諸委員会の規模の大きな組織網を作り出すことである。これらの委員会は、社会党指導者たちの側から統一戦線の断絶の企てに反対して最良の保証者であろう。』（『共産党と統一戦線のための闘争』、『コミンテルン』誌、五号、一九三五年三月、八巻、一一五―一一六

頁。）同盟諸委員会のこれらの機能は、一九三六年一月二二日、フランス共産党の第八回大会に対して、力強く、ヴィユールバンヌに思い出させる。すなわち、『われわれの社会党同志たちと協力して、と、M＝トレーズは、はっきり述べる、われわれは、至る所で、広い民衆会議によって下部諸委員会の選挙を強く勧める義務がある。』（モーリス＝トレーズ、一一分冊、一〇六頁。）選挙の勝利の直後に、つまり、党の書記長は、一九三六年五月二五日、イヴリー中央委員会に対して彼の報告の中で、状況の進展を考えれば、下部での同盟について共産党員たちの態度を明快にする。すなわち、下部での同盟は、労働者階級の固有な活動に不可欠である。下部での同盟は、綱領の適用を獲得する手段である。すなわち、『人々は、われわれに言う、はい、しかし、あなたの人民戦線諸委員会、それは、ソヴィエトである。それは、革命的なクラブの管理である。われわれは、静かに返事をする。すなわち、それは、本当でない。人民戦線諸委員会は、ソヴィエトではない（・・・）。ソヴィエトは、権力獲得への準備の、叛乱の、プロレタリアート独裁の諸条件における権力行使の諸機関である。人民戦線諸委員会は、他の問題である。諸委員会は、現実の諸条件の中で、共同の仕事に対して大衆の協力を保証することができる。』（同上、一二分冊、一九―二一頁。）この熟考は、党の指導する諸階層に留めることを考えるように誤ったであろう。人民戦線の支持者たちに開く、「共和主義のリヨン」紙（パトノートル＝グループによって規制された新聞）の欄の中で、この討論の存在よりもはっきりと表わすわずかのものである。一九三五年の終わりから、そして一九三六年の初めに、この問題について情報は、そこに繰り返される。リヨンに、反ファシズム知識人監視委員会の遅ればせの活動（委員会は、一九三五年一月にただここに作り出される）と委員会の働きは、レオン＝エムリー、スポークスマンの一人は、ミシェル＝アレクサンドル Michel Alexandre と一緒に、『完全な平和主義』（二人とも、リヨンで、刊行物のテーゼを発展させる、二週間の自由な定期刊行物を出版する）でそこに行使する、影響力の理由で、幾つかの問題を提起する。疑いもなく、それは、運動はパリ地方で知っている、アムステルダム＝プレイエル運動が、同じような大きさで、一時的消滅を被らないことを作り出す、原因の一つである。『比較の考察』を必要とする『共産党政策の変

更』を、―ロワル＝エ＝シェル県におけるように（D＝ルメール、『ロワル＝エ＝シェル県におけるアムステルダム＝プレイエル運動』、CHIRM、一八号、一九八四年七―九月、一〇〇―一二一頁。）―、その時よくあるように思われる。いずれにしても、一九三六年一月一二日、アムステルダム＝プレイエルの県大会は、リヨンの大都市圏の中で設置された、三六の委員会に対して、二、〇〇〇の加盟者たちの一〇三の代表者たちをなお集める。そこに取られる決定の間に、同時に、『労働者の悲惨な生活について思弁し、この悲惨な生活の挑発者、イクォール、資本主義制度を強固にすることを欲する』（一九三六年一月一八日の「共和主義のリヨン」紙。）、ファシズムの害悪を告発しながら、失業者たちに至る所で支持の運動を火ぶたを切るように決定を注意することが相応わしい。反戦と反ファシズム闘争を社会的諸要求と連帯の場について広い調停につなげる、主導権がある。すなわち、人々は、第三インタナショナルは、平和の擁護のためと自由の擁護の闘いの融合の前に眉をしかめた、時間から遠くにある！同じ「共和主義のリヨン」紙において、人々は、数カ月後で、一九三六年六月六日、ウランの鉄道員たちの労働組合統一委員会の活力に溢れたパイオニア、ピエール＝ポワザ Pierre Poizat の鉄道員のペンの下に、『行為によって』『対内と対外政策のプランについて合法的な革命』の推進力となる考えを『翻訳する』ように認めた、道具として人民戦線諸委員会を定義した、下部での統一された行動の諸形態について手紙を読むことはできた。P＝ポワザは、結論した、『わが国で、社会的正義と自由に夢中なわれわれの国民的な天才に合致した、一七九三年の共和主義的、民主主義的な伝統を修復する』ことは重要である。ヴィユールバンヌで、この統一された行動の考え方における進展は、共産党、社会党及び急進党の三つの地方の組織は、市当局に結合された二三の色々な組織（アムステルダム＝プレイエル諸委員会、諸労働組合、諸政党、宗教から独立した諸グループ、等）―共同して行動するように決定する時、一九三四年二月に生まれた、少しずつ広がり、とくに一九三五年一一月二一日の彼の会議の後に―寄せ集める、反ファシズム中央委員会の新しい膨張において示される。『加盟しながら、組織の原理的な独立を譲渡しない』組織の、しかし同様に、『宗教から独立した及び民主主義的な理想で活気づけた個人の』新しい収斂がある。公表された目

標は、『各人間に、生活への権利、威厳と安楽における労働への権利を保証しながら、自由と平和を実現する』ことである。事実、この反ファシズム中央委員会の宣言は、強調する、『全国人民連合の要求細目』（同上、一九三六年二月一七日。）を採択させることは（そして、実践に通過させることは）、重要である。それは、（市当局と協力して）『生活の正常な条件で』拒否された、『現実の経済的な無秩序の』犠牲者たちを考慮して失業者たちのヴィユールバンヌの諸事件をしっかりと握る、この機関である。そのように、ヴィユールバンヌは、アムステルダム＝プレイエルの県大会によって、一カ月もっと早く、提案された方向の決定を活用するため、最初の市当局である。企業は、成功でもって飾られる。二〇トン以上のじゃがいも、色々な食料となる製品の一トン、三、五〇〇の服のピースあるいは靴のペアー、そして一五、七八八フランは、集荷される。通りに、並んで、具体的な行動の中に集められた、色々な従順の活動家たちは、彼らの統一された関連を強化し、この共同の実行は、一月二六日、フランス社会党連盟の副書記、ルキュルティエによって開かれた、フランス共産党の第八回大会の代表者たちを挨拶しに来た、主題に疑いもなく縁のないものではない。すなわち、『この市役所は、市役所は労働者の市役所（である）から、常にわれわれのもの（である）（・・・）。あちこちで、現時点で、人民戦線諸委員会は、増加する（・・・）、われわれは、毎日のように、議論における結束に、闘争における結束に居合わせる（・・・）。人々が、非常に強力な革命的な推進力を感じる、良識と革命的な教育の刻印を打たれたままで、われわれの共産党同志たちの調停は、相次ぐ、この大会は、あなたとともに、同志たち、あなたの宣伝の諸手段と一緒に、われわれの二つの集まった党は、かつて以上に、反動は、フランスに通過しなかったであろうということを、それほど強い連合を形成したであろうということを、言う機会を私に提供する。』（一九三六年二月一日の「人民の声」紙。）人民戦線の選挙の勝利の展望は、はっきりする、いささか、楽観的なこの局面において、共産党は、地方投票から地方投票まで、党の統一された進め方の効果を確かめた。一九三五年五月二八日、ヴィユールバンヌで、ジュール＝グランクレマンの空席の議席を更新するように当てられた、県議会議員の補欠選挙は、行われた。一九三四年一〇月七日、勝つために、この最後の二

回投票で必要となった。今度は、共産党の立候補者、ジョルジュ＝レヴィは、第一回投票で、一四、六二二の表現された票に対して七、六五三票とともに、議席を獲得した。事柄をはっきりさせる細部がある。すなわち、ヴィユールバンヌで、レヴィは、一九三四年の第一回投票について一七・六六パーセントだけ進展したし、五五・九一パーセントの票とともに、第二回投票でグランクレマンの得票結果を一・八一パーセントだけ追い抜いた。もっと少ない激しさで、人々は、選挙区の労働者住宅地域、ヴェニシィユー、ヴオー＝ザン＝ヴラン、サン＝フォン、ブロンにおいて、同じ傾向を確認した。一九三六年の国政選挙は、間もなく確認する、真の『離陸』は、明らかに行われた。なぜなら、一九三六年二月の初めに、ヴィユールバンヌ人たちは、参事院が二人の市の選挙当選者たちの被選挙資格のないことを確認したことを、実際に学ぶから、諸国政選挙。すなわち、一九三四年七月二六日、破産の裁判の理由で、そして・・・、クールベ Courbet、なぜならジョリは、学校のそして大臣によるではなく任命について小学校高等科で教師の彼の職を営んだから、選挙は、取り消された、カミーユ＝ジョリ。（この最後の任命は、ジョリの選挙を合法にしたであろう！）そのように、新しい相談は、共産党によって提出された、単に二人の立候補者たちと、一九三六年三月二九日、展開する。すなわち、カミーユ＝ジョリ（一身上の都合による休暇に置かれた）と新しい立候補者、ラクール Lacour 。特別の種類の選挙＝テスト。すなわち、競争の欠如は、有権者の動員にあまり扇動しない。確固として、新しい市に人々の加盟を表明するように切望している、人々は、唯単に移動する。すなわち、さて、もしも、人々は、共産党の投票で最も不利な事務局の中にも（第一番目と第四番目）、最も有利な事務局の中にも（第七番目と第一四番目）、登録者たちについて、立候補者たちによって獲得された票のパーセンテージを計算するならば、人々は、ほとんど至る所で、一九三五年五月二六日の県議会議員投票について進歩を確認する（資料を見よ）。一カ月後に行われる、国民議会議員選挙は、なお運動を際立たせる。すなわち、ジョルジュ＝レヴィは、第一回投票に、選挙区の全体に対して、二一、七八八の表現された投票について一一、〇一九票とともに（五〇・五七パーセント）、そしてヴィユールバンヌで一四、四七二票について七、五七二票とと

もに（五二・三二パーセント）、代議士として選ばれる。もしも、人々は、登録者たちについて計算された票のパーセンテージを参照するならば、人々は、第七番目の事務局が絶対的な多数派を追い抜き（五一・一九パーセント）、そして、第一四番目の事務局は、多数派を軽く触れる（四九・五〇パーセント）ことを確認する。労働者の地区の大量の支持は、ここに、はっきり現われる。しかし、人々は、だからと言って、マルク＝ボンヌヴィルと一緒に、共産党員たちは、『単なる労働者たちに』（M＝ボンヌヴィル、前掲書、七一頁。）基づくことをはっきり言うことができるか？それは、職人たちと商人たちの方向で、市当局の開始と、フランス共産党の地方連盟は、一九三六年の投票にまでエドゥアール＝エリオの態度にもかかわらず、急進党の有権者たちを結集させるように努めた、固執を忘れることになるであろう。一九三五年七月六日、ヴェニシィユーで市会議員と地方指導者、ジョルジュ＝ルディル Georges Roudil は、「人民の声」紙において、当時急進党の選挙当選者たちを人民戦線で拒否した、「社会党の未来」誌と一緒に、『大衆の過激共和主義（ジャコビィヌ）のそして共和主義の全体において留まった、急進党の大衆は、真心から反ファシズムであるということを』論争した、『と、G＝ルディルは、書いた。大衆は、エリオと彼の友人たちを援助し、大衆は、われわれは、政策を事実に反したように信じる時、われわれは、政策を承認するように受け入れると同様に、大衆は、正しいと信じる政策を非難するように受け入れないであろうと同様に真実である。しかし、ロランのように、急進党の当選者たちは、ファシスト諸団体を武装解除する必要があるということを言う時、われわれは、当選者たちを返事をする義務がある。すなわち、承知した、賛成！この共同の闘争を組織しよう。当選者たちあるいは党を援助することを恐れる問題ではない。ファシズムに反対して、立派な意思は現われる時、すべての立派な意思を準備する必要がある。』それは、共産党員たちの選挙の勝利を祝うため、一九三六年五月一七日日曜日、ヴィユールバンヌで開かれた集会に、ヴァルデック＝ロシェの話題を抱かせる、同じ原則の政策である。新しい社会党代議士、アンドレ＝フィリップは、社会党を代表して、会議を挨拶しに来た。むしろ時宜に適さぬ大使、すなわち、第四番目の選挙区（リヨン＝ギヨティエール）における立候補者、A＝フィリップは、二、一九八票の後

で、丁度急進党弁護士モーリス＝ロラン　Maurice Rolland　を到達した。共産党の立候補者、ブリュネ Brunet（一、三五九票）は、人民戦線の規律を適用し、ロランのため立候補を取り下げた。アンドレ＝フィリップは、同じ進め方を拒み、第二回投票でフィリップの立候補を維持したし、そして共産党の有権者たちの側に、ブリュネの立候補取り下げの好都合と公正を疑うのに当てられる、内密にキャンペーンを組織した。最後に、フィリップは、二、九三六票に反対して三、二八〇票によって勝ったから、効力のあるキャンペーンである。ヴァルデック＝ロシェにとって、再び話をはっきりさせるように立派なチャンスである。すなわち、『われわれは、急進党員たちを賛成投票したということを、それは、断腸の思いではない。反対に、ロシェは、彼の演説の期間中に、発する。われわれは、誠実にわれわれの戦術を適用する。そして、われわれは、反動の腕における急進党大衆を拒否しないと望む。われわれは、われらの友人たちにいたずらをするため、人民戦線を作り上げなかった。われわれは、不足して幾つかの委任で、人民戦線の強化をむしろ支払いをする方を好む。』（一九三六年五月二三日の「人民の声」紙。）多分、個人的ないかなる行為は、打ち消さない、この原則の態度は、当時共産党は獲得する、威光と関係があるか？勤労諸階層の眼によって、共産党は、そうすれば、新しい価値と希望の使者として確立される。なぜなら、一九三六年の人民連合において集まった他の諸組織で、具体的に統一された、そして明らかにはっきりした、希望の使者であるから。(四)

一九三三年と一九三六年の間に、どのように、―二〇年代の共産党対社会党の対立の中心地―政治的なそして社会的なデータ及びフランス共産党によって国家的に定義された戦略を、ヴィユールバンヌで繋がるか。どんな進み方によって、すべて党の特異性を確認しながら、共産党は、この労働者都市の中で、人民連合の先頭に立つか。(五)

四

第四の論稿は、『市町村議会議員選挙から『休止』まで。簡略な年表』である。

一九三五年五月の危機

フランスにおいて、

五月五日及び一二日、市町村議会議員選挙、人民戦線の戦略は、その最初の果実を結ぶ。社会党員たちと共産党員たちは、進歩する。右翼もまったく同じ。穏健派たちと急進党員たちは、なお後退する。

五月、金の流出は急ぐ、すなわち、割引率の相次ぐ引き上げ。

五月三一日―六月一日、財政問題についてフランダン内閣の瓦解。ブィソン内閣の創設。

六月四日、ブィソン内閣の瓦解。

世界の中で、

五月五日、同盟協定は、フランスとソ連邦の間で署名される。

ラヴァールとスターリンは、一三日モスクワで話をする。「リュマニテ」紙は、一六日彼らの話題出のコミュニケを公表する。

五月一六日、援助条約は、ソ連邦とチェコスロヴァキアの間で署名される。

ラヴァールの攻撃と民衆の反撃、一九三五年六月―一九三六年一月

フランスにおいて、

六月七日、議会はフランダンに対して拒絶した、議会は緊急政令の使用を認める、ラヴァール内閣の創設。

六月九日―一二日、ミュールーズで集まった社会党大会は、『民主主義的諸自由を防衛するため大民衆運動』の考えを

承認する。

六月二〇日、アムステルダム＝プレイエル運動は、一九三五年七月一四日、反ファシズム諸勢力の共同デモを組織することを狙った集会の主導権に属する。

一九三五年六月二一日―六月二五日、文化擁護国際作家会議は、パリで開催される。

一九三五年七月三日、急進党の指導委員会は、ラヴァール内閣にその支持を再開する、しかし、一九三五年七月一四日の行進に参加しながら、共和制を防衛するのに断固として確認する。

一九三五年七月一四日、右翼諸組織の一三万の支持者たちは、シャン＝ゼリゼ大通りに向かって行進する。そして、五〇万の反ファシズムたちは、バスティーユ広場からナシオン広場まで行進する。その朝ビュファロ広場に集まった一万の代表者たちは、人民連合を宣誓する。反ファシズム諸デモは、フランス全体に起こる。

七月一六日、公の給与を特に一〇パーセントで切り詰める緊急政令の最初の一連の法案。

七月二四日、外国の手労働の雇傭を制限する緊急政令。

七月二四日、労働総同盟と統一労働総同盟は、経営者たち、諸政府と諸政党に対して、労働組合運動の絶対的な独立を確認する共同テキストを署名する。ある中立は、『実施するあるいは獲得すべき諸改良として公の諸自由を脅威するであろう危険に対して、その無関心を含むことはできないであろう。』

七月―八月、公共部門におけるスト。八月五日と六日、ブレスト及びツーロン兵器廠での激しい挑戦は、結局五名の死者となる。

八月八日、『経済的回復のため』緊急政令の第二回の一連の法案。

九月、労働総同盟と統一労働総同盟は、同時にそれらの大会を招集し、お互いに労働組合再統一のため態度を表明する。

一〇月三日、知識人たちの三つの宣言、すなわち、西洋の防衛のため。ファシズム反対。正義と平和のため。
一〇月三〇日、緊急政令の第三回の一連の法案。金の流出は再び始まる。
一〇月、多様な諸改良を勧め、銀行及び基幹産業の国有化の詳細な計画を提出する、労働総同盟のプランの決定的な採用。
一九三五年一〇月二四日―二七日、急進党大会は、ダラディエが『第三身分とプロレタリアの同盟』として定義する、人民連合の考えに再び集まる。
一一月一一日、一〇万の共和派在郷軍人たちは、シャン＝ゼリゼ大通りに行進する。
一一月一六日、リモージュで、火の十字架団と左翼活動家たちの間で血生臭い事件。
一二月六日、準軍隊式の組織の解散。
一二月二八日、イタリアに直面したラヴァール政策について議会での質問。
一二月三一日、一九三六年予算の投票。
一九三六年一月一〇日、長い議論の後、パン、平和、自由を防衛する予定の一連の諸要求として提出される、人民連合綱領の採用。
一月二〇日、ダラディエは、急進党の議長の職にエリオを代わりとする。
一月二二日―二五日、ヴィユールバンヌでフランス共産党大会。共産党は、参加の問題についてその態度をはっきりさせる。
一月二四日、ラヴァール内閣の瓦解。サロー内閣の創設。
世界の中で、
一九三五年七月二九日―八月二七日、共産主義インタナショナル大会は、フランス共産党の戦略的方向の決定を承認す

る。

七月三一日、スタハーノフ坑夫の手柄は、ソ連邦に社会主義的競争心のキャンペーンを始める。

八月一六日、エチオピアについて三国協議会は、英伊の不一致について失敗する。

九月一五日、ユダヤ人たちを国家から追放する、ドイツにおいてヌーレンベルグ法律の採用。

一〇月三日、イタリアは、エチオピアを侵略する。

一〇月五日、国際連盟は、イタリアに反対して制裁の適用を要求する。

一二月八日、エチオピアでイタリアに有利な解決を注目する、ラヴァール—ホーア平和条約のプラン。

一九三六年一月一五日、スペインにおける人民戦線の創設。

サローの媒介物、一九三六年一月—五月

フランスにおいて、

一九三六年二月一〇日、一五万人の反ファシズムたちは、レピュブリック広場、一九三四年二月一二日を記念する。

二月一三日、アクシオン＝フランセーズの会員によって犯された、レオン＝ブルムに反対して襲撃。アクシオン＝フランセーズの団体は、解散される。

二月一六日、五〇万人のデモたちは、レオン＝ブルムに反対する襲撃を烙印を押すために行進する。

三月三日—六日、トゥールーズ大会で労働総同盟の再統一。

四月二六日、国民議会議員選挙の第一回投票。

五月三日、国民議会議員選挙の第二回投票で人民戦線の勝利。フランス社会党は一四九名の当選者たちを所有し、急進党員たちは一一一名、共産党は七二名、そして各種の左翼は五七名の当選者たちを所有する。

世界の中で、

一九三六年二月、ハイレ＝セラシエ、エチオピア皇帝は、降伏するように諦める。
二月一六日、スペイン国政選挙における人民戦線の大勝利。
三月七日、ラインラントの再軍備化。
三月、得票の九八・七九パーセントによる人民投票で票決されたナチの政策。
四月一日、非挑発的な侵略の場合に仏英相互援助の約束。
選挙の勝利から『休止』まで人民戦線
フランスにおいて、
一九三六年五月二四日、六〇万人のデモたちは、連盟兵の『壁』を前に行進する。
五月二六日、工場占拠とともにストの開始。
五月二七日、『大胆な人たちにすべては可能である』とマルソー＝ピヴェールは書く。
六月四日、第一次ブルム政府の創設。
六月五日、フランス生産総連盟と非公式な接触すること。
六月六日、ブルムは、国民議会を前に自己紹介をし、三八三票対二一〇票を獲得する。
六月七日、マティニョン協定の署名。
六月一一日、M＝トレーズは、ジャン＝ジョーレス体育館で集まった、ミリタンたちの会議で工場占拠の継続に反対して明示する。
六月一一日―一二日、団体協約制、有給休暇制、週四〇時間制に関する法律。
六月一八日、パリ冶金業における仕事の回復とストの戦線についての一般的な弛緩。
六月二一日、ドゥ＝ラ＝ロックのフランス社会党の創立。

六月二八日、ドリオのフランス人民党の創立。
七月二日、一四歳まで修学年限の延長に関する法律。
七月一四日、フランス全体における大デモ。
七月二四日、フランス銀行の改革。
七月二五日、大土木工事の綱領の採用。
八月一日、ブルム政府は、スペインにおける不干渉を決定する。
八月四日、『フランス人戦線』を「リュマニテ」紙でデュクロの論文。
八月、フランス生産総連盟は、フランス経営者総連盟になる。
八月一一日、軍需産業の国有化に関する法律。
八月一五日、小麦公団に関する法律。
九月八日―一七日、ノール県の織物業におけるストと各種の動き。
九月二六日、ヴァンサン＝オーリオールは、一〇月一日フランの平価切下げを予告し、九月二八日金に関する輸出禁止を布告する。フランは、二五パーセントだけ平価切下げを行う。
一一月一八日、ロジェ＝サラングロの自殺。
一二月四日、共産党議員たちは、投票の時対外政策に関して棄権する。
一二月三一日、強制的仲裁に関する法律。
一月二一日、スペインについて登録は、フランス政府によって禁止される。
二月二一日、レオン＝ブルムは、ラジオで社会的休止の必要性を予告する。
世界の中で、

五月一〇日、アサーニャは、スペイン共和制の大統領となる。
五月、ギリシアで、五〇万人のスト賛成者たちは、メタクサス政策に抗議する。
七月四日―一五日、国際連盟は、イタリアに反対して決定された制裁を廃棄する。
七月一八日、フランコ派の蜂起の開始。
八月、モスクワで一六名の訴訟。ジノヴィエフとカーメネフの死刑宣告。
九月、フランコは、『国家首長』となる。
一〇月一五日、第一次の国際旅団のスペインにおける到着。
一一月、ローズヴェルトの再選。
一一月二五日、独日の反コミンテルン条約。
一九三七年一月二日、地中海における現状を予測する伊英協定。
一月、モスクワで新しい大訴訟の開始。(六)

―一九八七―一〇―二〇、草稿―
―一九八九―一―九、原稿―

(一) ヴィユールバンヌ Villeurbanne は、中仏リヨンに近いローヌ河沿いの町である。
(二) Cf. Maurice Moissonnier, Front populaire et identité communiste à Villeurbanne (1933-1936), in: CHIRM, n° 24, Jan., Fév., Mars 1986, pp. 54-69.
(三) Cf. Ibid., pp. 69-75.
(四) Cf. Ibid., pp. 75-83. 資料は、Cf. Ibid., pp. 84-88.

(五) Cf. Ibid., pp. 3-4.

(六) Cf. Des élections municipales à la ‹pause›, Chronologie sommaire, in: Ibid., pp. 89-93.

付　　記

(一) 主要参考文献は、Cf. Julian Jackson, The Popular Front in France, Defending democracy, 1934-38, Cambridge U.P., USA, 1988, etc.

(二) 筆者は、Centre de Recherches sur l'Histoire des Mouvements sociaux et du Syndicalisme (CRHMSS), Université de Paris I, Bulletin n° 11, 1988 を寄贈されている（一、五〇〇部、一九八八―九）。人民戦線期は、一〇種（修士号五種、博士論文五種）である。外国で七八二種、国内で三三四種、合計一、一一六種である。